



瀬谷小だより

9月号

平成30年8月27日
横浜市立瀬谷小学校

子供の教育、安全を思う暑い夏

校長 倉岡 ナオミ

今年の夏は本当に異常とも思える暑さが猛威を振るい、大切な子供たちを預かる学校としては、水筒の持参や校外活動の自粛、午後の水泳教室の中止など、年度当初の計画とは変更せざるを得ませんでした。休み明けの天候も予断を許さない状況です。子供たちが楽しみにしているセヤリンピックに向けての活動も始まります。子供たちの安全を第一に考え、今後も状況を見てその都度判断していくことになるかと思えます。保護者の皆様には、御理解、御支援いただきますよう、お願いいたします。

毎年夏季休業中に教育課程についての教職員の研修会が開かれます。横浜市としての教育の方向性が示されるもので、教科ごとに教職員が参加し、学んできたことを共有します。御存知のように新しい教育課程の編成を進めているところですが、どのような子供になってほしいのか、(どんな資質、能力を身に付けさせたいのか) そのために、どのようなことを重点的に進めていくのかをはっきりさせていくことが大切になります。それを、地域、保護者の皆様にも理解していただき、協力を仰ぎながら進めていくのが、開かれた教育課程の考え方です。瀬谷中学校ブロック(瀬谷中学校、瀬谷小学校、上瀬谷小学校、大門小学校)では、昨年度末に9年間で育てたい子供像を共有化しました。これは、すでに皆様にもお示ししているところですが、「**人との関わりの中で、多様性を認め合い、自らを高められる児童・生徒**」というのが私たちが目指す子供の姿です。この実現に向けて具体的な方策を考えていくのですが、今まで私たちが大切にしてきたことを大きく変えるわけではありません。先日、キッズのお弁当作りで、親の苦労や愛情に気づき、自分の行動を考えた子供の感想に感激しました。多くの人との関わりや活動を通して自分を高めている姿です。今まで積み重ねてきた日々の教育活動を通して着実に心も育っているのを感じて、嬉しく思いました。これから、さらにより良いものを求めて教職員も努力してまいります。

さて、少し前のことになりますが、7月に地域防災会議が開かれました。消防署の方から、地震時の火災の発生を減らすためにも、地震が起きたときに自動的にブレーカーが落ちるようになっている方が望ましいということや、各家庭で**家族が3日間耐えられるだけの食料や衛生品の備蓄**を呼びかけてほしいというお話を伺いました。また、教育委員会より、登下校時の児童の安全確保について、昨今の痛ましい事件の発生を受け、通学路の安全確認をするよう、要請がありました。学校として、地域、保護者の協力も得て、進めているところです。九月は防災月間でもあります。各家庭でもう一度、お子さんの使っている通学路に危険なところはないか、家庭の備蓄品は大丈夫かなどを確認してみたいでしょうか。

子供たちの元気いっぱいの笑顔を守るため、日々の健康、安全に注意を払いつつ、この暑い前期末を乗り切りたいと思います。夏休みの疲れや生活リズムの不調など出やすい時期です。ご家庭での健康観察もよろしくお願いいたします。